



Zeroから始める
肉便器■ミリア

こんなこと……

い、今なら許してあげる。

だから、他の人たちを解放して。



もうやめて・・・
それ以上は



あははは

あははは

エミリアは言われるがまま、
必死にチンポを舐めながら
おっぱいをチンポに擦り付けている





精子を顔にぶちまけ様とも、
必死に必死に、おっぱいをチンポに
擦り付けるエミリア。

『そんな顔の間近でマンコ広げるだなんて。あ。

お願い、もう許して。』



「そんなところまで舐めるなんて、ああ・・

舌が中に・・・こんな恥ずかしい

思いをしたのは初めてよ』

ふっ ちゃ
ふっ ちゃ

た だ た



『うえっぐ・・・もうダメ・・・。どうにかなりそう
はあああはうああう』



-数日後-

『ご主人様のチンポをエミリアのおまんこ
にズプズプ入れてくだささい』



『もうご主人様のチンポ無しではエミリア
生きて行けない。』



『はあはあはあはあもつと出してくだささい。ご主人様の精子なら
いくらでも飲みます。』

これからもずっとエミリアはあなたのものです』

